

会議等経過報告書

1. 件名	令和4年度第1回大船渡市立図書館協議会
2. 日時	令和4年7月14日（木） 午前9時55分～午前11時10分
3. 場所	大船渡市民文化会館（1階展示ギャラリー）
4. 出席者	委員：佐々木一義副会長、金野洋子委員、佐々木規子委員、白木澤京子委員、千葉久委員 図書館：（市）新沼部長、熊谷館長、佐々木館長補佐、菅野係長（指定管理者）大友統括責任者、中井業務責任者

会議等の内容（要旨）

- 1 **開会**（進行：佐々木館長補佐）
委員出席状況の確認。出席5名、欠席1名。
- 2 **委員紹介**（熊谷館長）
- 3 **会長及び副会長の選任について**
委員互選により、次のとおり決定。
会長：藤村敏夫委員 副会長：佐々木一義委員
- 4 **会長あいさつ**（佐々木副会長）
- 5 **部長あいさつ**（新沼部長） **並びに職員紹介**（熊谷館長）
- 6 **議事**（進行：佐々木副会長）

報告第1号 令和3年度図書館事業の実施状況及び利用状況について（菅野係長説明）

■（千葉委員）

令和2年度よりも3年度が貸出しが増えたとのことだが、図書の貸出し以外で図書館を利用している生徒等の状況がどうだったか、日頃の中高生が勉強している様子が見られるのかお聞きしたい。それから蔵書整理している中で古い本がでてくると思うが、そういったものはどのようにしているか、有効に活用する予定があるかという部分をお聞きしたい。

（菅野係長）

1点目の貸出以外の利用状況については、昨年度はコロナ対応のため、座席数を減らしたという時期があった。その中でも、感染状況が縮小してきた時期には、子供達が来て勉強する、夏休み冬休みの時期にも利用が見られたという様に感じている。数字としては押さえていないが、昨年度ICタグのゲートを設置したことで、今後、年度の比較ができるようになる。

2点目については、図書館で古い本を廃棄する場合は、情報が古くなったもの、本自体の劣化の激しいものを廃棄することとしているが、現在は廃棄予定の物をストックしている状況にある。今年度、指定管理者となった図書館流通センターで活用予定と話を伺っているところ。

■（佐々木一義副会長）

貸出状況について、全体の貸出しが増えたということだが、かもしか号については減少しているようだ。これはどのように捉えたらよいのか伺いたい。

（菅野係長）

かもしか号については、利用者の減少傾向が見られると感じている。以前は3人来ていた場所でも、2人もしくは1人となったといったように、利用者が減っていることが1点。それから、コロナの関

係で、学校への団体貸出を1か月延長するといった対応を行ったケースがあり、その分、新たな貸出しとして増えなかった。また、学校行事の関係での振替休日と運行日が重なり、同様に延長した例もあった。そのあたりが減少の理由となったと考えている。

■（白木澤委員）

令和3年度の個人の利用登録者数が17,799人となっており、市の人口の半分くらいとなっていると思うが、すべての人が借りているものなのかというのが1つ。貸出冊数も個人で2万1千という数字だが、借りた冊数の合計がカウントされているということでよいか。実際に利用している人数はどれくらいかということは把握できるか。進学した子どものカードや、転勤から戻っていった人の登録も残っているかと考える。そういった人たちを除いたときの、実際の数字はどうなのか。

（菅野係長）

資料に掲載している数字は、これまでに登録された方の積上げとなっている。貸出者数については、ご指摘のとおり、1人の方が月2回借りたとすると年間では24人としてカウントされる。実人数もシステム上では把握できることから、次回お示ししたい。

（熊谷館長）

登録者数については、これまでの累計であり、亡くなった方や転出した方も含まれている。

（白木澤委員）

累計は、リアスホールへ移転した後の利用登録数か、前の図書館の時から引き継いだ数か。

（菅野係長）

移転時にシステム導入したと聞いており、それ以降の数字と思う。他の図書館によっては、数年間使用しないと数字から外すところや、利用停止となった方を外すこともあると聞いている。

（大友統括責任者）

現在わかっている状況についてお伝えします。現在、累計登録者約1万8千名、無効登録者（1年間1回も使われていない方）が約8千500名いる。図書館で登録者管理する場合に「有効登録者数」というものを1つの目安にする。この有効登録者数というのは、1年間に登録された方が何人使っているかの数字です。令和3年3月末で3千人となっている。そのため、登録者数については利用されていない方については精査して、削除する必要があるという認識です。

■（白木澤委員）

除籍について、無償譲渡について検討を行ったとあるが、その結果はどのようになったのか。

（菅野係長）

最終的な部分から言うと、結論は出ていないという状況。市の予算で買ったものについては普通財産という位置付けになるが、譲渡の手順では手続きが難しいことは分かった。他の図書館の実施事例を参考に、具体的な手順や実施方法を詰める。

（佐々木副会長）

例えば、市立の小中学校へ譲渡するということは比較的容易にできるということか。

（菅野係長）

そこは容易と考える。ただ、小学校向けにお渡しする本として、破損・劣化の激しいものは好ましくないという点と、調べもの等に使う本の場合、「研究の結果、動物の科目が変わった」など掲載情報自体が古くなっているものを出して良いかといった部分もあり、その対象の精査が必要。その2点はあるが、小中学校に渡すこと自体は、敷居が低いと考えている。

（千葉委員）

学校の図書ボランティアを8校ほどしているが、学校の本はかなり古い。昭和50年代や60年代の本を廃棄しようとしているが、「現有数」という学校で揃えておかなければならない冊数の基準があ

り、在庫として置かなければならないという問題がある。今行っている学校では市立図書館で除籍した本をもらって置いている所もあるが、学校で昔買った本よりきれいだ。本の修理もできるので、図書館ではいらぬという本があったら、最初に小中学校に声をかけてもらえればありがたい。

(佐々木副会長)

学校でも新しい本を揃えたいと思っても、予算の関係で進められないという状況で、少しでも今の状況より良くしたいと思いながら出来ずにいるところもあるので、ぜひ検討してほしい。

協議第1号 令和4年度図書館事業計画(案)について (指定管理者 大友統括責任者説明)

■ **(千葉委員)**

先ほど話したとおり、(除籍の本について) 学校優先でお願いできるとありがたい。

もうひとつは学校図書館との連携についてで、大船渡市はどの学校もパソコンのソフトで管理していて、操作さえ覚えれば誰でも除籍ができるが、先生方は時間が取れないので、図書館の方が操作を覚えて補助に入って頂ければ助かると思う。学校図書館でNDCなど基礎を学んでいけば、市立図書館に行っても迷うことなく本が楽しめる、そういうふうな市民生活の足掛かりになっていけばと思っている。市立図書館の分類とあまり違わない排架を学校でできれば、子供達が年を重ねていっても図書館に親しめると思う。そういう共通事項を認識し合えたらうれしい。

(大友統括責任者)

本のリサイクルについては、非常にご要望が高いようなので、日程を調整しながらやっていければと考えている。

学校図書館連携については、大船渡市の場合、学校図書館支援員が入っていないと聞いている。その体制を整えるのが大前提になると思う。その上で市立図書館として実施するという分には問題はないが、図書館の窓口を各学校で作って頂くのが大前提かと思う。ぜひ学校の図書館をどう運営していくかということについては、図書館支援員を配置するのかどうかを含めて検討いただきたいというのが私共の回答となる。

(千葉委員)

指定管理業務と市との関係というのはどうなっているのか。

(大友統括責任者)

基本的には、学校で授業をするのは先生です。その授業をする先生のためになり、その子供たちのためになる。実際に現場でどのような形で子どもたちが本を選ぶのか、そういった仕組みを学校現場で作っていく必要があると思うが、そこが醸成されていないのではないかと推測している。

(千葉委員)

(先ほどの発言は) 大船渡市に意見を申すための協議会なのかということではなくて、お互い協力し合っていければいいと思う(という趣旨)。理想は理想として、現状として市立図書館が協力できないのであれば、それはそれでよいと思う。予算が絡むことでもあり、できる範囲で良いと思う。

(佐々木副会長)

学校運営協議会や地域の力を借りながら、ボランティアの方、学校の中での図書館の整備等も進めていきたいが、まだまだ課題も沢山あると思っている。

■ **(佐々木委員)**

広報計画の重点目標の「図書館を好きになってもらう」というのがある。昔の図書館の頃から、子供を連れて良く行って、リアスホールになってからも使っているが、敷居が高くなっているというか、昔は狭かったのと平日だったので利用者も少なかったこともあるが、子供達は図書館の職員に声かけをしてもらった。今を見ると、職員も多く、入れ替わりもある中でコミュニケーションがないと感じる。特に子供は、ちょっとした声かけで好きになるというか、図書館に行きやすくなる、入りやすくなる。私の子供たちは既に成人したがよくそれを言う。今はコロナだから難しいかもしれない

が、貸出の手続きも事務的に感じている。もう少し温かみのある図書館であってほしいという思いがある。そういう環境づくりもお願いしたい。

(大友統括責任者)

指摘いただいた件については、もっともな意見だと思っており、笑顔で声掛けすることを励行していきたい。ただ、世の中の状況が変わってきているということは、認識していただきたいと思う。カウンターの煩雑さを解消しようということで、自動貸出機を使っていたとか、だんだん変わってきている。必然的に窓口での対応などの接点がなくなってきている状況もあるため、そのあたりはご了承いただきたい。声掛けの大切さについては、スタッフにはそういうご意見があるということで、温かい声掛けをするよう進言したいと思う。

(中井業務責任者)

前の図書館は事務室とカウンターが分かれていなく、カウンターも低く、距離が近かったという違いはあると思う。現在の図書館になってから、カウンターも高くなり、対面した時の印象は変わっていると思っており、その分、コミュニケーションについて心がけたいと思う。子ども時代の読書傾向は、大人になっても続くということは児童サービスでも言われているので、児童コーナーでのフロアワークも活発化し、読書推進につなげるように指導していきたい。昨年度までの職員体制では入れ替わりが多い状況だったが、指定管理になって職員となり、有資格者も増え、子どもに限らず、大人の方にも、より専門的なサービスができるよう続けていけたらと考えている。

協議第2号 令和4年度図書館資料購入計画(案)について (指定管理者 中井業務責任者説明)

■ (千葉委員)

SDG's 関連の本を学校でそろえるのは非常に難しいので、色々な分野に及ぶと思うが、SDG's 特設コーナーを設けてほしい。選書の参考にしていただければと思う。

(中井業務責任者)

SDG's 関連の本は2、3年前からかなり出版が増えている。その中で、どの資料が良いものか見極めながら入れているところだが、一般書に加えて児童書も増えているので、蔵書を増やししながら図書展という形での紹介や、書籍のリストを関係機関に配布できればと考えている。

■ (千葉委員)

購入計画の内容については良いと思うが、指定管理になってこれまでとの購入先の違いはあるか。以前の協議会で、できるだけ地元業者から購入してもらうようお願いをした経緯があるが、購入先について教えてもらえるのであれば、お願いしたい。

(熊谷館長)

図書購入については、指定管理者を募集する段階から、地元から購入するよう努めることと令和2年度の購入金額を下回らないことという条件で募集したので、以前と変わっていない。

■ (佐々木副会長)

事務局の方では、ただ今のご意見を踏まえて、今後の図書館運営の参考となるようお願いする。

7 その他

なし。

8 閉会(午前11時15分)

